

被災の苦しみ分かち合い

さださんら、9道府県の復興祈る

有楽町よみうりホール（東京都千代田区）で26日開かれた「葉師寺まほろば塾」の東京塾（法相宗大本山葉師寺、読売新聞社主催）では、同寺執事長の加藤朝胤塾長らが法要を営み、東日本大震災や熊本地震など9道府県の被災地の関係者らと犠牲者を追悼し、被災地の復興を祈った。

葉師寺

まほろば塾

東京塾

法要では、加藤塾長らが読経し、会場の参加者らと般若心経を唱えた。法話では「苦しみや悲しみは分け



被災地の復興を祈る僧侶ら（東京都千代田区で）＝西孝高撮影

るほど軽くなる。被災地に出かけ、一人でも多くの人と苦しみをともしること、が私たちの役目」と語った。2011年の紀伊水害で大きな被害を受けた十津川村の更谷慈禧村長（72）は「村にもいち早くご支援をいただき、改めて感謝したい。新しい村づくりは、支え合う、助け合うの精神で進めている」と話した。

加藤塾長と歌手のさだまさしさん、福島民友新聞社の五阿弥宏安社長の座談会では、さださんが東日本大震災の被災状況を見て、「音楽の出番はない」と思い悩んだことを吐露。しかし、現地でコンサートを開くと被災者が喜んでくれたといい、「この日も「北の国から」や「関白宣言」などのヒット曲を披露した。

五阿弥社長は、原発事故があった福島に対してまだ危険なイメージを持っている人がいると指摘し、「ぜひ福島に来て、そうではないと発信してほしい」と訴えた。

宮城県石巻市の後藤宗徳・石巻商工会議所副会頭（60）は「復興が進む町でい

るほど軽くなる」とし、16年の熊本地震の被災地・熊本県益城町の向井康彦副町長（66）は「復興の支援をいただいた全国の方々に、いかげひ町の様子を見て来てもらいたい」と話した。

来場した千葉県船橋市の主婦田中敏恵さん（65）は「今度の春休みには孫を連れて東北を訪れようと思う。被災地の現状を少しでも理解し、支援につなげたいと感じた」と話していた。